取扱説明書

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」（〇〇）と「使用上の
ご注意」（〇〇）をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくため
にも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができ
るよう、手元に置いてください。
安全上のご注意

マークについて
この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。

| 注意 | 感電の恐れあり | キャビネットをあけるな |

注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。
この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。
修理は、お買い上げ店またはローランド・サービスに依頼してください。

火災・感電・傷害を防止するには

警告と注意の意味について

△警告
取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性がある内容を表わしています。

△注意
取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合
および物理的損傷のみの発生が想定される内容を表わしています。

図記号の例

△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。
具体的な注意内容は、△の中に描かれています。
左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。

○は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。
具体的な禁止内容は、○の中に描かれています。
左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。

□は、強制（必ずすること）を表わしています。
具体的な強制内容は、□の中に描かれています。
左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

以下の指示を必ず守ってください

△警告

□この機器を使用する前に、以下指示と取扱説明書をよく読んでください。

□この機器を分解したり、改造したりしないでください。

□修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。

△警告

□次のような場所での使用や保存はしないでください。

□温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）

□水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）

□雨に濡れる場所

□ホコリの多い場所

□振動の多い場所

□この機器の設置には、ローランドが推奨するスタンダード（対応状態）を使用してください。

□この機器の設置にスタンダード（対応状態）を使用する場合、ぐらついた所や傾いた所に設置
（対応状態）を設置しないでください。安定した水平な所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な所に設置してください。
警告

- 電源プラグは、必ず への電源コンセントに差し込んでください。
- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷をつけ、ショートや短絡の結果、火災や感電の恐れがあります。
- この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。
- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。

注意

- この機器は、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。
- 本製品は当社製のスタンド（ ）とのみ、組み合わせて使用できるよう設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをするおそれがあります。
- 電源コードを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。
- 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外してください。
- 接続したコードやケーブル類は、繁殖にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。
- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。
- 漏れた手で電源コードのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。
- この機器を移動するときは、電源プラグをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。
- お手入れをするときには、電源を切って電源プラグをコンセントから外してください。
- 落雷の恐れがあるときは、早めに電源プラグをコンセントから外してください。
使用上のご注意

電源について

口 電源を切るとき、長時間使用しないとき、移動や接続するときには、コンセントからプラグを取り、電源を切ってください。

口 故障時、修理時、定期点検時、または長期間使用しない場合は、電源を切ってください。

設置について

口 本機は水平な台面に設置してください。傾斜や振れの原因となります。

口 電源コードは、电源タップ近くに設置してください。

口 ケーブルは、他の機器のケーブルを一緒に接続してください。

口 本機の設置位置は、湿気や熱気、直射日光を避けてください。

口 本機の設置は、後にケーブルを接続するためのスペースを確保してください。

口 電源コードは、他の機器のケーブルを一緒に接続してください。

お手入れについて

口 本体は、柔らかい布で乾拭きするか、堅く

 MHz する布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいと

 ときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔

らかい布で乾拭きしてください。

口 サイド、ボタン、スイッチなどの部分は、柔らかい布で乾拭きしてください。

修理について

口 本体は、定期的に点検をお願いします。

口 電源コードは、定期的に点検をお願いします。

口 本体は、定期的に点検をお願いします。

口 プラグは、定期的に点検をお願いします。

口 本体は、定期的に点検をお願いします。

口 ケーブルは、定期的に点検をお願いします。

口 本体は、定期的に点検をお願いします。

音楽をお楽しみになる場合、音楽の再生中に音がしない

のように、特に音量は、音量を十分注意してください。

音楽をお楽しみになる場合、音楽の再生中に音がしない

ように、特に音量は、音量を十分注意してください。

音楽をお楽しみになる場合、音楽の再生中に音がしない

ように、特に音量は、音量を十分注意してください。

音楽をお楽しみになる場合、音楽の再生中に音がしない

ように、特に音量は、音量を十分注意してください。

音楽をお楽しみになる場合、音楽の再生中に音がしない

ように、特に音量は、音量を十分注意してください。
目次

安全上のご注意 .................................................... 1
使用上のご注意 .................................................... 2
目次 .......................................................... 3
主な特長 ...................................................... 4
各部の名称とはたらき .......................................... 5
フロント・パネル ................................................ 6
リア・パネル .................................................... 7
接続のしかたと主な機能 ........................................ 8
接続のしかた .................................................... 9
フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルを使う ................................................ 10
音量（ボリューム）とプリリアンス ................................ 11
デモ・ソングを聴く .............................................. 12
音色を選ぶ .................................................... 13
種類の音色を重ねる（レイヤー） ................................ 14
音色を鍵盤の左右で変える（スプリット） ...................... 15
エフェクトを使う ................................................ 16
移調する（トランスポーズ） .................................... 17
鍵盤の感度を設定する（キーボード・ベロシディー） ........ 18
メトロノームを使う .............................................. 19
レコーダーを使う ................................................. 20
演奏を録音する .................................................. 21
録音したソングを再生する ...................................... 22
その他の便利な機能 ............................................ 23
ピッチを調節する（マスター・チューニング） ................ 24
古典音律を使う .................................................. 26
キーボード・ベロシティオフのときの固定ベロシティ値 .......... 27
ペダル機能 ..................................................... 28
設定を保存する .................................................. 29
工場出荷時の設定に戻す ....................................... 30
機能 ........................................................ 31
送信 / 受信チャンネル .......................................... 32
フィルター ....................................................... 33
音色番号（プログラム・ナンバー）について .................. 34
資料 .......................................................... 35
故障かなと思ったときは ....................................... 36
スプリット時の音色の自動設定 ................................ 37
コーラス・オンとオフの自動設定 ................................ 38
インプリメンテーション・チャート ............................. 39
主な仕様 ..................................................... 40
主な特長

鍵ハンマー・アクション鍵盤を採用
ピアノとしてのナチュラルで快適な弾き心地と、デリケートな演奏表現が可能です。また鍵盤を弾く強さに応じた音色や音量の変化をタイプから選択でき、自分に合った最適なタッチで演奏できます。移調（トランスポーズ）機能も搭載。鍵盤のピッチを全体的にずらすとしたり、手のキーに合わせてピッチを変えることができます。

ステレオのピアノ音色を含む種類の内蔵音色
ステレオの音源部を搭載しています。ステージ・ピアノの核となるピアノ音は、ステレオ・サンプリングされた賢明なサウンドです。グランド・ピアノの持つ繊細かつ豊かな響きを楽しめます。エレクトリック・ピアノ音色以外にも、ストリングスやピアノサウンド、ジャズ・スキャットなど、基本的な種類音色と、ピアノのバリエーション音色の合計種類音色を内蔵し、変化に富んだステージ・パフォーマンスに対応します。また、種類の音色を重ねて鳴らすレイヤー機能も搭載しています。

レッスンに活用できるトラック・レコーダー
トラックのレコーダーを搭載しています。自分の演奏を録音して確認したり、練習の曲を一人で練習するなど、幅広い用途で活用できます。またメトロノーム機能も搭載し、レッスンやレコーダーへの録音時に便利なガイドとして使えます。

古典音律の響きを再現
バロック音楽などの古典音楽を演奏するときに、その時代に使われていた音律にすることが可能です。現在は平均律で調律されが普通ですが、当時は他の音律が使われていた時代があります。作曲された時代に使われていた音律で演奏すると当時の響きを再現することができます。
各部の名称とはたらき

フロント・パネル

① ( ) ボタン（本体右側）
電源をオン、オフします。

② [ ] ( ポリューム ) つまみ
全体の音量を調節します。

③ [ ] ( プリリアンス ) つまみ
音の「明るさ」を調節します。

④ [ ] [ ] ( ロワー、アップ ) つまみ
レイヤー（音色を重ねる）やスプリット（右手と左手で別々の音色を使う）の演奏時に、アップとロワーの各音色の音量を調節します。

⑤ 音色設定ボタン
音色を選択します。ボタンは個ですが、種類の音色を選ぶことができます。（表示されていない音色は、ホル・モード時にボタン押すことで設定できます。（ ））

⑥ ディスプレイ
パラメーターや機能の設定をするときに、値を表示します。

⑦ ( ) [ ] ( データ [ ] ) ボタン
パラメーターの値や、テンポの設定をしたり、バリエーション選択するときに使います。

⑧ [ ] ( サプリット ) ボタン
右手と左手で違う音色を使うときにオンにします。鍵盤を分ける位置（スプリット・ポイント）は変更できます。

⑨ [ ] ( キーボード・ベロシティ ) ボタン
このボタンは機能があります。鍵盤のベロシティ・センスをオン、オフにするときと、ベロシティ・カーブを選ぶときに使います。インジケーターが消灯しているときは、一定のベロシティ値「 」（中ぐらいのタッチ。値は変更できます。）で発音します。

⑩ ( ) ( トランススポーズ ) ボタン
鍵盤の選択はそのまま、別の調（キー）で鳴らすときに使います。

⑪ [ ] ( ファンクション ) ボタン
音色設定ボタンと組み合わせて押すことで、パネルに見えないパラメーターの設定ができます。

設定できるパラメーターは次のとおりです。

<table>
<thead>
<tr>
<th>[</th>
<th>]</th>
<th>説明</th>
<th>ページ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>マスター・チューニング</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>レコーダー・メトロノームの拍子</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>アッパーの送受信</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ロワーの送受信フィルター</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>プログラム・チャネルの送受信フィルター</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>エフェクトのオン、オフの送受信フィルター</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ボリュームとエクスプレッションの送受信フィルター</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ダンバーの設定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ベダルの設定（ベダル機能）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>古典音律など音律の設定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>音律の主音の設定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ストレッチ・チューニングの選択</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>キーボード・ベロシティがオフのときの固定ベロシティ値の設定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>ルーカル・コントロールのオン、オフ設定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>[ ]</td>
<td>パネルの設定を保存する</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
各部の名称とはたらき

⑥ [リバープ] (リバープ) ボタン
リバープ（残響効果）をオン、オフします。
リバープの深さは、[リバープ] を押しながら、[■] / [■] を押して調節します。

⑦ [コーラス] (コーラス) ボタン
コーラスをオン、オフします。
コーラスの深さは、[■] を押しながら、[■] / [■] を押して調節します。

注意
ピアノ音色では、シンパセティック・レゾナンス効果が自動的にオンになります。この効果の深さを調節するときは、[■] と [■] を同時に押します。（■■）

リア・パネル

① ソケット
付属の電源ケーブルを接続します。

② コネクター (MIDI)
MIDIから他の機器をコントロールするときは、このコネクターと MIDI機器の コネクターを接続します。
シーケンサーとシンセサイザーなど、他の MIDI機器から MIDI信号をコントロールするときは、このコネクターと MIDI機器の コネクターを接続します。

③ [ダンパー・ペダル] ジャック
同様のダンバー・ペダルを接続します。ペダルを踏んでいるあいだ音が持続する、ダンパー（ホールド）ペダルです。

④ [ソフト / エクスプレッション・ペダル] ジャック
別売の スイッチやエクスプレッション・ペダルを接続します。エクスプレッション・ペダルの場合は、「ソフト」または「ソステナート」を設定します。エクスプレッション・ペダルの場合は、エクスプレッションに設定され、抑揚をつけるときに使います。

注意
フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルの効果をどのようにかけるかを設定できます。アッパー / ロワー / 両方から選択します。スプリットまたはレイヤー・モードのときに有効です。

⑤ [出力 (右、左 / モノラル)] ジャック
同様のサウンドを出力します。
キーボード・アンプ（シリーズ）や、ステレオ、アンプ付きスピーカー（シリーズ）などに接続します。
スピーカーは、スピーカーを内蔵していません。

⑥ [ヘッドホン] ジャック
別売のステレオ・ヘッドホンを接続します。
接続のしかたと主な機能

接続のしかた

・ステレオやキーボード・アンプなどを接続することで、音を聴くことができます。モノラルのアンプを使うときは、[出力]ジャック [ ] とアンプの入力ジャックを接続してください。アンプやスピーカーを使用しない、ヘッドホンをご使用の場合もできます。

注意
他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

・正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどの破損する恐れがあります。

注意
この機器は回路保護のため、電源をオンにしてからしばらくは動作しません。

1. と、接続している機器の電源をオフにします。

2. ステレオやキーボード・アンプの入力ジャックと、のジャックを接続します。

エクスプレッション・ペダルやフット・スイッチを接続する

[ ] に、別売のRobert Rusnak製のフット・スイッチや、エクスプレッション・ペダルを接続することで、ソフトや音が変動するなどの機能が使える。

注意
エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のもの（別売：）をお使いただけます。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
フット・スイッチを接続したときの機能
ソフトまたはソステナート効果が使えます。効果の選択は[①]をご覧ください。

ソフト：スイッチを踏むと、音量を抑え、音がソフトになります。
ソステナート：ダンバー・ペダルと似ていますが、スイッチを踏む時にキー・オンしている音だけをホールドします。スイッチを踏んだ後にキー・オンしてもホールドしません。

メモ
レイヤーやスプリット機能を使っているときは、両方またはどちらの音に効果を効かせるか設定できます。（①）

エクスプレッション・ペダルを接続したときの機能
オルガンのペダルと同じように音量をコントロールすることができます。スウェル効果（クレシェンドやデクレシェンド）を可能です。（①には、オルガンの音色は内蔵されています。）

注意
フット・スイッチとエクスプレッション・ペダルのどちらが接続されているかは、自動的に検出します。

メモ
レイヤーやスプリット機能を使っているときは、両方またはどちらの音に効果を効かせるか設定できます。（①）

■■ 音量（ボリューム）とプリリアンス

[①]を動かすと、全体の音量を調節できます。何にすると音量が最大になり、「①」にすると音が出ません。

メモ
ヘッドホンの音量も、[②]で行います。
[③]を動かすと、音の明るさを調節できます。「③」にすると音が明るくなり、「④」にすると音が頂く、柔らかくなります。
音色を選ぶ

それぞれのボタンは、次の3種類の音色が使います。（0）が付いた音色は、バリエーション音色です。

コンサート用グランド・ピアノの音です。ステレオで豊かなリバープ効果がかかります。
コンサート用グランド・ピアノの音です。
目立った明るいピアノ音です。ポピュラー音楽やバンド演奏に適しています。
落ち着いたヨーロピアン・ピアノ音です。クラシック音楽の演奏に適しています。
音色が強調されたピアノ音です。ロックやバンド演奏に適しています。
少しあリーニングが外れたピアノ音です。明るく楽しい雰囲気を作ります。
クラシック電子ピアノの壮麗な音です。
ローズ・ピアノ音です。音に広がりがあり、クリアで美しい音がします。
一般的なエレクトリック・ピアノ音です。
弦を弾いた音をアシナで増幅させたクラビ音です。リズミックな演奏に向けています。
上記と少し違うクラビ音です。
一部で洗練されたハープシコードの音です。
ビブラホンの音です。
マリンバの音です。
グロッケンシュピールの音です。
コントラバスを指で弾いた音です。
エレキ・ベースを指で弾いた音です。（ピック等を使用していない音です）
ジャズ・スキャットのベースの音です。
美しい弦楽アンサンブルの音です。
スロー・アタックのシンセサイザー・ストリングス音です。
暖かい感じのシンセサイザー・パッド音です。コード伴奏に適しています。
鍵盤を弾く強さによって種類の声を出すジャズ・スキャットです。スプリット機能で、と組み合わせると良いでしょう。
暖かい感じのコーラス音声です。

通常の音色は、音色選択ボタンを押して選択します。

バリエーション音色（○が付いた音色）は、次の手順で設定します。

1. 音色選択ボタンを押し、レイヤーやスプリット機能をオフにします。
2. バリエーション音色に切り替える音色選択ボタンをでとつ押します。
3. 音色選択ボタンを押しながら、程々ー[0]か[0]を押して、バリエーション音色に切り換えます。

バリエーション音色を選ぶときには、いくつか音を出して確認してみましょう。

種類の音色を重ねる
（レイヤー）

では、種類の音色を重ねて演奏することができます。これをレイヤーといいます。よく使う組み合わせはピアノと弦楽器ですが、他の音色との組み合わせも試してみましょう。（ピアノとローズ・ピアノの音など）例として、と組み合わせてみましょう。

1. [00000000]を押しながら、[00000000]を押します。

ボタンのインジケーターが両方とも点灯し、レイヤー機能がオンになります。鍵盤を弾くと、両方の音色が鳴ります。

2. [00000000]と[00000000]で、音量バランスを調節します。
接続のしかたと主な機能

先に押したボタンの音がアッパー側、後に押したボタンがローワー側になります。
3. レイヤーを解除して □ の音色にするには、音色選択ボタンを □ つだけ押します。
4. 音色の組み合わせを変えたいときは、手順 □からやり直します。

メモ
どちらの音色にペダル効果をかけるか選べます。（□□□）

音色を鍵盤の左右で変える（スプリット）

鍵盤をアッパー（□□□□□）とローワー（□□□□□）の □ つに
区切ることで、右手と左手で違う音色を鳴らすことができま
す。鍵盤を □ つに分けることをスプリットといい、区切る
場所をスプリット・ポイントといいます。

1. 右側（アッパー）の音色を選びます。
2. [ □□□□□ ] を押します。（インジケーターが点灯します。）
[ □□□□□ ] を押す前に選んでいた音色が右側に割り当てられ
ます。これをアッパー音色といいます。 □□□□□ は、自動的
に鍵盤左側で使う音色（ローワー音色）を選び、アッパーかロ
ーワーもしくは両方を移調します。（□□□□□）

メモ
ローワー音色は、変更することができます。
3. □□□□□ [ □□□□□ ] と [ □□□□□□ ] で、音量バランスを調
節します。
4. スプリット機能を解除するには、もう一度 [ □□□□□ ] を
押します。

メモ
どちらの音色にペダル効果をかけるか選べます。（□□□）

スプリットで使う音色を変更する

スプリット機能を使っている状態（[□□□□□□□ ] インジケー
ターが点灯）で、アッパーとローワーの音色を変えることがで
きます。
アッパー音色は、音色選択ボタンを押して切り替えます。
（ローワー音色は、そのままです。）
ローワー音色は、アッパー音色のボタンを押しながら、ローワー
で使う音色選択ボタンを押します。

スプリット・ポイントを変更する

スプリットのときは、□□□□□のキーを境にして、アッパーと
ローワーに分かれます。スプリット・ポイントの鍵は、アッ
パー音色に含まれます。
このスプリット・ポイントは、□□□□□キーの間で自由
に設定できます。

メモ
[□□□□□□□ ] を押しながら、□□□□□または□□□□□を押
します。
選んだノート・ナンバーがディスプレイに表示されます。

メモ
□□□□□□□ を押しながら、スプリット・ポイントに設定する
キーを押すことも設定できます。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をするとき、電源を
オンにしたときに同じ設定状態になります。（□□□□□）
エフェクトを使う

コラス、リバープ、シンパスティック・レスノンスの種類のエフェクトを使うことができます。
コラスは、すべての音色で使えますが、シンパスティック・レスノンスは、ピアノ音色のみを使うことができます。

音に広がりを出す（コラス）
コラスは、複数の楽器で音を鳴らしているようなアンサンブル効果のことを。豊かに広がる存在感のある音になります。コラス効果の深さは、段階で設定できます。

コラスをオン、オフする
1. [ ] を押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。
コラスがオンになりました。
オフにするには、もう一度 [ ] を押してインジケーターを消灯させます。

メモ
コラス・エフェクトは、音色ごとにオン、オフの状態を憶えます。

リバープをオン、オフする
1. [ ] を押して、ボタンのインジケーターを点灯させます。
リバープがオンになりました。
オフにするには、もう一度 [ ] を押してインジケーターを消灯させます。

メモ
リバープ・エフェクトは、音色ごとにオン、オフの状態を憶えます。

リバープの深さを変更する
効果の深さはあらかじめ設定されていますが、次の手順で変更することができます。
1. [ ] を押しながら、[ ] または[ ] を押します。

メモ
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。

コラスの深さを変更する
効果の深さはあらかじめ設定されていますが、次の手順で変更することができます。
1. [ ] を押しながら、[ ] または[ ] を押します。

メモ
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。
ピアノの弦の共鳴を加える
（シンパセティック・レゾナンス）

アコースティック・ピアノでは、ダンパー・ペダルを踏むと他弦も共鳴し、音に厚みが加わります。[ ・ ]は、ピアノ音色でこの効果が使えます。（[ ・ ・ ] → [ ・ ・ ・ ・ ・ ]) と、それらのバリエーション音色（シンパセティック・レゾナンス）は、これらの音色を選ぶと自動的にオンになります。効果の深さは 0 段階で設定できます。この効果は、[ ・ ・ ・ ・ ・ ] にペダルを接続しているときのみ有効です。

1. [ ・ ・ ・ ・ ・ ] と [ ・ ・ ・ ・ ・ ] を同時に押します。ディスプレイにシンパセティック・レゾナンス効果の深さが表示されます。
2. [ ・ ・ ・ ・ ・ ] と [ ・ ・ ・ ・ ・ ] を同時に押しながら、[ ・ ・ ] または [ ] を押します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（・・・）

注意
レイヤーやスプリットのときは、ここで設定した深さが両方の音色に効きます。

キーを使って、トランスポーズの設定をする

1. [ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ] を押しながら、調の主音（トニック）のキーを押します。
2. [ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ] のインジケーターが点灯し、移調されたキーで演奏することができます。
インジケーターが点灯していないときは、移調されていません。（=[ のキーを弾けば、 の音が鳴ります。）トランスポーズ機能は、[ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ] を押してオン、オフします。

注意
設定は電源を切るまで有効です。移調量の設定については、保存操作をすると電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（・・・）

例：メジャーの指使で メジャーの曲を弾く

[ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ] を押しながら、のキー（、、、、、、、のいずれか）を押します。のキーを弾くと、の音が鳴ります。
ボタンを使ってトランスポーズの設定をする

1. [ ] を押しながら、[ ] または [ ] を押します。
ボタンを 1 回押すごとに半音ずつ変化します。設定できる範囲は、〜 です。0 半音まで下に下げ、0 半音まで上げることができます。「O」に設定することはできません。
設定を「O」に戻したいときは、[ ] を押すと【】を同時
に押します。

警告
設定は電源を切るまで有効です。移調量の設定については、保存操作をすると電源をオフにしたときに同じ設定状態になります。(警告)

例：メジャーノの指使いでメジャーの曲を弾く
指を基準として、0 は 0 半音上になります。
[ ] を押しながら、[ ] を押して「O」にします。

警告
トランスポーズ機能は、通常の演奏時に有効です。モード・ソングや、の演奏を録音したソング（）の再生では効きません。

コード 側
鍵盤の感度を設定する（キーボード・ベロシティー）

キーボード・ベロシティーをオン、オフする

1. [ ] を押します。
オンでインジケーター点灯、オフで消灯します。
キーボード・ベロシティーをオフにすると、どの強さで弾いても同じ強さ（インジケーター値「」）になります。
固定ベロシティー値の設定は変えることができません。

警告

キーボード・ベロシティーを調整する
キー・タッチによる反応が軽すぎるときや、重すぎるときは、感度（ベロシティー・カーブ）を変えてみましょう。

1. [ ] を押してください、インジケーターを点灯させます。

2. [ ] を押しながら、[ ] または[ ] を押し、ベロシティー・カーブを選びます。

警告
鍵盤の反応が軽くなります。強い音が簡単に出せるようになるので、子供や初心者向けています。

警告
鍵盤の反応が重くなります。強く弾かないと強い音が出ないので、タッチによるダイナミック・レンジは広がります。

警告
中程度の重さになります。
（出荷時の設定）

警告

音色は、ベロシティーの強弱によって音声が変化するので、必ず「」か「」に設定してください。

警告
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。(警告)

警告
電源オン時は、自動的にキーボード・ベロシティーがオン（インジケーター点灯）になります。
メトロノームを使う

メトロノームは、レッスン用のメトロノームを搭載しています。拍子とテンポはお好みで設定できます。メトロノームの音量は 3段階で設定できます。

1. [ ] を押して、メトロノームをスタートさせます。
もう一度ボタンを押すと、メトロノームが止まります。
2. [ ] を押しながら、[ ] または [ ] を押して音量を設定します。(→ 3)
3. [ ] または [ ] を押して、メトロノームのテンポを設定します。
設定できる範囲は、四分音符 ～ 400％です。

メトロノームの拍子を設定する

四分の Ⅳ拍子に設定されていますが、他の拍子に変えることができます。

1. [ ] を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ ] を押します。
ディスプレイに、現在の設定が表示されます。「ⅥⅢ」など
3. [ ] または [ ] を押して拍子を設定します。
設定可能な拍子は、次の通りです。

<table>
<thead>
<tr>
<th>拍子</th>
<th>意味</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>0-Ⅳ</td>
<td>強拍（各小節の頭の音）だけを鳴らします。</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子（出荷時の設定）</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
<tr>
<td>Ⅳ-Ⅳ</td>
<td>四分の Ⅳ拍子</td>
</tr>
</tbody>
</table>

4. [ ] を押して終了します。

注意！
メトロノームの各種設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（→ 3）
レコーダーを使う

演奏を録音する

[イラスト]

空のトラック・ボタンのインジケーターが点滅します。
この状態をレコーディング・スタンバイ・モードといいます。

テープ・レコーダーでは、左右のスピーカー用に2つのチャンネルを使います。それぞれのチャンネルの音を録音するところを「トラック」といいます。

同じようなシステムになっています。右手と左手の演奏を別々のトラックに録音して、それぞれ再再生しながら片手の練習をすることもできます。
また、それぞれのトラックに違うパートを録音して、人分の演奏をすることもできます。スプリットやレイヤーを使った演奏では、2つの音が同じトラックに録音されます。

録音をキャンセルするには、もう一度[2]を押します。
1. [2]を押します。
再生を止めるときは、もう一度[2]を押します。
2. 必要に応じて[2]を押して、再生テンポを変えます。

レコーディング・スタンパイ・モードのとき、すでに録音されているトラックのボタンを押すと、点灯・消灯が切り換わります。点滅にすると新しい演奏が録音されるトラックになります。このまま録音すると前回の演奏は消去され、呼び出すことができなくなりますのでご注意ください。

録音できる音符の数には限界があります（約100音）。ペダルを使うと、その情報も録音されますので、録音できる音数が減ります。

録音したソングを再生する

1. [2]を押します。
再生を止めたいときは、もう一度[2]を押します。
2. 必要に応じて[2]を押して、再生テンポを変えます。

ひとつのトラックだけを再生する

1. 再生しないトラックのボタンを押し、インジケーターを消灯させます。
2. [2]を押して、再生を始めます。
3. [2]を押すと、ストップします。
その他の便利な機能

この章で解説する機能は、[ ]を使います。いつも必要な機能ではないですが、いざというときに便利です。

ピッチを調節する（マスター・チューン）

他の楽器やブレーパーに合わせて演奏するときは、それらとピッチを合わせる必要があります。
[ ]はデジタル楽器なので、マスター・チューンが狂うことはありません。またチューニングを変えるとしても、弦のピッチを調節するのではなく、いくつかボタンを押すだけの簡単なものであります。

1. [ ]を押してインジケーターを点灯させます。

ディスプレイに、現在のピッチの周波数が表示されます。

2. [ ]を押します。

設定可能な範囲は、[ ]～[ ]です。通常は[ ]に設定されています。

3. [ ]または[ ]を押して、キーキーの周波数を変更します。

4. [ ]を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（[ ]）

古典音律を使う

[ ]は、バロック音楽などの古典音楽を演奏するときに、その時代に使われていた音律にすることができます。
現在では、平均律という音律で楽器が調律されていますが、クラシック音楽では他の音律が使われていた時代もあります。作曲された時代に使われていた音律で演奏すると、その作品が意図する響きを再現することができます。

1. [ ]を押してインジケーターを点灯させます。

2. [ ]を押します。

3. [ ]または[ ]を押して、音律を選びます。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。（[ ]）
主音（トニック）を設定する
平均律以外の音律を使うときには、演奏する曲の調によって、主音を設定します。（長調では「[♭]」、短調では「♯」など）
1. [♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭♭布莱
その他前後の便利な機能

3. ボタン[ □ ]または[ □ ]を押して、項目を選びます。
   - U : アッパー音色だけにダンパー・ペダルが効きます。（出荷時の設定）
   - L : ローウ音色だけにダンパー・ペダルが効きます。
   - U-L : アッパーとローの2方の音色にダンパー・ペダルが効きます。
   4. [ □□□□□ ]を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源を
オンにしたときに同じ設定状態になります。（□□□□）

□□□□□□□ジャックの機能
[ □□□□□□□ ]を使うための設定
フット・スイッチとエクスペッション・ペダルのどちらを
接続しているかは、自動的に認識されます。
フット・スイッチを接続した場合は、ソフトとソステナート
（□□□）のどちらの機能にするか設定します。
エクスペッション・ペダルを接続した場合は、この設定は
不要です。
1. [ □□□□□□ ]を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ □□□□□□□□ ]を押します。
3. □□□□[ □ ]または[ □ ]を押して、項目を選びます
   - SFL : ソフト・ペダル（出荷時の設定）
   - STL : ソステナート・ペダル
4. [ □□□□□□□ ]を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源を
オンにしたときに同じ設定状態になります。（□□□□）

[ □□□□□□□ ]に接続したフット・スイッ
チやエクスペッション・ペダルを使う
ための設定
レイヤーやスプリットのときに、どのように効果を効かせるか
設定します。
アッパー音色のみ、ロー音色のみ、両方、どのかを選べ
ることができます。
1. [ □□□□□□□ ]を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ □□□□□□□□□ ]を押します。

3. □□□□[ □ ]または[ □ ]を押して、項目を選びます。
   - U : アッパー音色だけに効果がかかります。（出荷時の設定）
   - L : ロー音色だけに効果がかかります。
   - U-L : アッパーとローの2方の音色に効果がかかります。
   4. [ □□□□□□□ ]を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源を
オンにしたときに同じ設定状態になります。（□□□□）

□□設定を保存する
[ □□□□□□□□□□ ]での設定（ローカル・オン/オフは除く）
や、エフェクト設定、メトロノーム設定、移調量の設定、
キーボード・ペロシティの種類設定など、各種設定を保存す
ることができます。保存しておくと電源を入れるたびに設定
する手間が省けます。

注意
保存は一組みしかできません。したがって設定の保存をする
と、元々保存されていた設定は無くなります。
1. [ □□□□□□□ ]を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ □□□□□ ]を押します。
ディスプレイに「Sjao」表示されます。
3. □□□□[ □ ]を押します。
設定が保存されます。
4. [ □□□□□□□ ]を押して終了します。

□□□工場出荷時の設定に戻す
保存されている設定を消去し、工場出荷時の状態に戻すこと
することができます。
1. [ □□□□ ]と[ □□□□ ]を押しながら、本体右の電源ス
イッチをオンにします。
2. ディスプレイに「Fcft」表示され、ボタンを離
します。
工場出荷時の状態に戻りました。
機能

接続例：[ ]から音源モジュールをコントロールする

接続例：シークエンサーの接続

送信 / 受信 チャンネル

アッパー側のチャンネルを設定する
ローウェの音に使う ⌃ ⌃ ⌃ チャンネル
1. [ ⌃ ⌃ ⌃ ] を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ ⌃ ⌃ ⌃ ] を押します。
3. [ ⌃ ] または [ ⌃ ] を押して、ローウェ側の ⌃ ⌃ の設定をします。
( 0-2, 3-5 から選びます。)
4. [ ⌃ ⌃ ⌃ ] を押して终了します。

 bic · tフィルター

ローウェ・コントロール
●●●●●と ⌃ のシーケンサーを接続して、シーケンサーで ローウェの演奏を録音することができます。

シーケンサーのスルーブロー（●●●●●で受信した情報を ⌃ のスルーブローに送信する機能）がオンになっていると、リズムの演奏情報をシーケンサーから再び戻されててしまうので、同じ音が 初度鳴ってしまいます。（ほんとうに重ねて鳴ります。）
これは、●●●●●の鍵盤からの情報が、通りの絶縁を通って内蔵音源に届くためです。これでは、思った通りの演奏をすることができません。

そこで、この問題を防ぐためにローウェ・オフの設定をしました。
プログラム・チャンジの送受信フィルター

プログラム・チャンジとは、音色切り換え情報のことです。他の機器から [ ] の音色を切り換えるか、[ ] の音色を切り替えられます。
ここでは、プログラム・チャンジ情報を送受信する / しないの設定を行います。

1. [ ] を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ ] を押します。
3. [ ] または [ ] を押して、on（送受信する）かOFF（送受信しない）を選びます。
4. [ ] を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。

エフェクト・オン / オフの送受信フィルター

[ ] では、コーラスやリバープなどのエフェクトのオン / オフもできます。このフィルター設定がオンになっていると、[ ] のコーラス・リバープ・ボタンのオン / オフをしたときに、選んでいる機器でも [ ] を表示します。

1. [ ] を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ ] を押します。
3. [ ] または [ ] を押して、on（送受信する）かOFF（送受信しない）を選びます。
4. [ ] を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。

ボリュームとエクスプレッションの送受信フィルター

[ ] と [ ] のつまみで音量を調節したときや、アッパー側やマーク側のボリュームとエクスプレッションが送受信されます。
また別売のエクスプレッション・ペダル（[ ]）を使ったときに、同じくボリューム（エクスプレッション）情報が送受信されます。ここでは、これらを送受信のオン / オフを設定します。

1. [ ] を押してインジケーターを点灯させます。
2. [ ] を押します。
3. [ ] または [ ] を押して、on（送受信する）かOFF（送受信しない）を選びます。
4. [ ] を押して終了します。

注意
設定は電源を切るまで有効です。保存操作をすると、電源をオンにしたときに同じ設定状態になります。

音色番号（プログラム・ナンバー）について

音色を切り換えるときや、[ ] から[ ] にプログラム・ナンバーを送信します。[ ] で選択した音色を送受信することができます。

実用例でこの情報を受信すると、音色選択ボタンを押したと同じ動作をします。

・アッパー側とマーク側の各プログラム・ナンバーの送受信ができます。[ ] と [ ] で選択した音色を送受信することができます。

・プログラム・チャンジの送受信フィルターが on になっているときに、送受信ができます。
資料

故障かなと思ったときは
動作がおかしいと思ったら、まず次の項目をお確かめください。

電源が入らない
電源コードがしっかり差し込まれていますか？

音が出ない
・アンプ、ミキサーの電源が入っていますか？
接続は正しく確実にされていますか？
接続ケーブルが不良ではありませんか？
[ ] [ ] などのつまみが下がっていますか？
アンプやミキサーのポリュームが下がっていますか？
ローカル・オン / オフの設定がオフになっていますか？
( )

接続している他の機器（外部音源）の音が出ない
外部音源の電源が入っていますか？
接続ケーブルが不良ではありませんか？
外部音源のポリュームが下がっていますか？
・の送信チャンネルと外部音源の受信チャンネルが合っていますか？
( )

鍵盤を弾くと音が度鳴りする
レイヤーになっていませんか？
シーケンサーを接続している場合は、シーケンサーのスルー機能をオフにするか、をローカル・オフにしてください。
( )

鳴らない音がある
はボイスまで同時に発音できますが、実際に発音できる音数は音色によって異なります。音色の中には、適な音色を得られるように複数のボイス（部分音）を組み合わせたものがあります。例えば、のボイスで構成される音色を鳴らせばにはボイスを使いますので同時に発音数は音になります。録音したソングを再生しながら演奏すると、思ったより音が重なってボイスを越えてしまいやすくなります。

鍵盤のピッチがおかしい
マスター・チューンの設定がずれていませんか？
[ ] の設定は正しいですか？
音律（）やストレッチ・チューニング（）の設定がされていませんか？

フット・スイッチやエクスプレッション・ペダルが正しく動作しない（効かない / 効果が効いただままでになる）
ペダルのジャックはしっかり差し込まれていますか？

音の強弱が思いどおりにならない
キーボード・ペロシティーの設定は正しいですか？
( )
スプリット時の音色の自動設定

スプリットにすると、アッパーおよびロワー音色が次の組み合わせになります。

スプリット
（スプリット・ポイントの初期設定：□□□）

<table>
<thead>
<tr>
<th>アッパー（右）</th>
<th>ロワー（左）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アッパー1オクターブ1</td>
<td>ロワー1オクターブ1</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー2オクターブ2</td>
<td>ロワー2オクターブ2</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー3オクターブ3</td>
<td>ロワー3オクターブ3</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー4オクターブ4</td>
<td>ロワー4オクターブ4</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー5オクターブ5</td>
<td>ロワー5オクターブ5</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー6オクターブ6</td>
<td>ロワー6オクターブ6</td>
</tr>
<tr>
<td>アッパー7オクターブ7</td>
<td>ロワー7オクターブ7</td>
</tr>
</tbody>
</table>

スプリット時にロワー側で使う音色のオクターブ設定

<table>
<thead>
<tr>
<th>オクターブ</th>
<th>音色</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ロワー1オクターブ1</td>
<td>音色1</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー2オクターブ2</td>
<td>音色2</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー3オクターブ3</td>
<td>音色3</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー4オクターブ4</td>
<td>音色4</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー5オクターブ5</td>
<td>音色5</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー6オクターブ6</td>
<td>音色6</td>
</tr>
<tr>
<td>ロワー7オクターブ7</td>
<td>音色7</td>
</tr>
</tbody>
</table>

コラス・オンとオフの自動設定

使う音色によって、コラスが自動的にオンになります。
## インプリメンテーション・チャート

<table>
<thead>
<tr>
<th>ファンクション</th>
<th>送信</th>
<th>受信</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ベーシック・電源・時計</td>
<td>アッパー・ロック</td>
<td>アッパー・ロック</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>チャンネル設定可能</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>モード</td>
<td>モード</td>
<td>モード</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>電源・時計</td>
<td>メッセージ</td>
<td>メッセージ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>代替</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ノート</td>
<td>音域</td>
<td>音域</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ナンバー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ベロシティ・ノート・オン</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ベロシティ・ノート・オフ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>アフター・キー別</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>タッチ・チャンネル別</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ピッチ・ペンド</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コントロール・チェンジ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>プログラム・チェンジ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>エクスクルーシブ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ソング・ポジション</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コンボ・ソング・セレクト</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>クロック</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>タイム</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オール・オフ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オール・ノート・オフ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>オーティブラッシュ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>システム・リセット</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>備考</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

モード：オムニ・オン、ボリュームモード・オムニ・オン、モノモードありモード・オフ、ボリュームモード・オフ、モノモードなし

この機器の動作仕様をくわしく説明した「インプリメンテーション」（別売）があります。プログラミング等で必要なかたは、販売店に注文してください。
主な仕様

< 鍵盤 >
- 鍵 (ハンマー・アクション鍵盤)
- 鍵盤タッチ
- 段階（軽い / 標準 / 重い / オフ（固定））
- キーボード・モード
- ホール
- レイヤー
- スプリット（スプリット・ポイント設定可能）

< 音源 >
- 最大同時発音数
- 音
- 音色数
- 音色
- エフェクト
- リバープ（段階）
- コーラス（段階）
- シンパセティック・レゾナンス（段階）
- キー・トランスポーズ
- 半音（半音単位）
- 音律
- 種類
- マスター・チューニング

< レコーダー >
- メトロノーム

音量調節：段階
- トラック数
- トラック
- 記憶曲数
- 曲
- 記憶音数
- 分音符
- テンポ
- 分音符
- スイッチ

< その他 >
- 表示器
- セグメント スイッチ
- 接続端子
- アウトプット端子（オフ、オン）
- ヘッドホン端子（オフ）
- 揚げ端子（オフ）
- ペダル端子（ダンバー、ソフト / エクスプレッション）
- 電源
- バッテリ
- 外形寸法
- 奥行（幅）（奥行）（高さ）
- 質量
- 付属品
- 取扱説明書
- 保証書
- 保証書
- 電源コード
- ペダル・スイッチ
- 別売品
- インプリメンテーション
- キーボード・スタンド
- エクスプレッション・ペダル
- ケーブル

製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
お問い合わせの窓口

商品のお取り扱いに関するお問い合わせは・・・お客様相談センターまでご相談ください。
尚、お問い合わせの際には取扱説明書をご用意ください。

お客様相談センター 受付時間：午前10時～午後7時（土、日曜、祝日および弊社規定の休日を除く）

＜電話番号＞

□ 大阪 ☎️ 思い出のままに（株）

□ 東京 ☎️ 東京信用済信用ビル

＜住所＞

〒 郵便番号 大阪市西区堂島浜 ☎️ ☎️ 大和堂堂ビル

修理に関するお問い合わせは・・・商品をお求めの販売店か、保証書に同封されている「サービスの窓口」に記載の営業所、サービス・ステーション、またはサービス・スポットまでご相談ください。

□ 上記窓口の名称、所在地、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

□ 取扱説明書の英語版（有料）をご希望の方は、販売店にお問い合わせください。
If you should require an English Owner's Manual (at a modest fee), please contact an authorized Roland distributor.

ローランド株式会社